

2013 年度森泰吉郎記念研究復興基金 報告書

政策・メディア研究科 修士課程 1 年

中川 遼

研究テーマ

イギリス植民地時代のシンガポールにおけるアヘン貿易

研究概要

本研究は、19 世紀から 20 世紀にかけて、アヘン貿易の中継地であったシンガポールにおけるアヘンの流通や、アヘンが当時の国際関係にどのような影響を与えていたのかということ、イギリスのアヘンに関する政策を中心に分析するものである。シンガポールにおけるイギリスの政策について、アヘンを中心に見ていくことにより、当時のアジアや世界におけるイギリスの影響力は、アヘンという一つの商品によって維持されていたのだろうか、また、イギリスがアヘンを好んだ理由は、経済的な側面以外の他の理由があるのではないかということも含めて調査するものである。

研究方法

主に日本語文献、外国語文献を調査し、また、一次史料も調査する。一次史料は、イギリスや、シンガポールの史料を分析する。一次史料からは、アヘンに関する国際会議の時のイギリスを含む各国の発言記録や、シンガポールにおけるアヘンの取引量を調査したいと考えている。

今後の展望

当時の国際関係からイギリスのアヘンに関する政策を分析するには、20 世紀から始まったいくつかのアヘンに関する国際会議を調べる必要がある。それぞれの会議の内容から、イギリス政府の対応、また、イギリスとアメリカの意見の食い違いなど、他国とのやり取りまで詳細に調査していく。各国の政府間のやり取りを見ていくことにより、イギリスの海峡植民地政府ではなく、イギリス政府のアヘンに関する考えを知ることができる。さらに、イギリスの海峡植民地政府とイギリス政府の政策を比較することにより、アヘンに関して、それぞれの方針の違いや、どのように政策を一致させていたのかということも分かるのではないだろうか。

他にも、東南アジアにおける西洋諸国のアヘンに関する関係も分析する必要があるため、各国の植民地間のアヘン取引や、アヘンに関する政策を比較し、それぞれの国によるアヘンに関する政策の違いを見出していきたいと考えている。